

地球の平和と自然環境を守る

活動の概要

Peace&Nature は、日本在住 20 年の在日イラン人、バハラム・イナンルを代表理事として'02 年から活動を始め、'06 年 8 月正式に NPO 法人として設立しました。地球の平和や環境の保護をテーマにさまざまなプログラムに取り組んでいます。

活動の 3 本柱は、①環境保護 ②子どもの国際健全教育 ③食糧問題の解決 です。特に地球の未来のため、子どもたちを主役に考え、「国際的な視野を持ち、強く逞しく、真に心強く優しい大人へ成長することを支援しよう！」との思いで日々活動に取り組んでいます。

主な活動としては、子どもの健全育成を図るため、国内外の子どもを対象とした環境や平和をテーマにしたイベント・講演会・セミナーの企画開催、国際交流の推進、また、農山村と都市の活性化と循環をめざし、グリーンツーリズムの企画運営、地産地消促進のための特産品の普及啓発と提供に関する事業などがあげられます。

国際的ネットワークの強みを生かし、外国人メンバーも一緒に活動しています。Peace & Nature は、Earth Friendly (地球に優しい) な人々、学校、企業に働きかけ、また、商品の紹介などを続けながら、私たちの街から世界へ「住みよい地球にしていこう」の考えを広げる活動を発信しています。



成果

年々参加者は増えています。よいことは自然と伝わっていき、参加者の増加につながります。

課題

運営資金はメンバーの個人資産で賄ってきましたが、3 年が経過し、バージョンアップさせて運営資金の捻出方法を考える段階に来ています。

夢・抱負・今後の推進方向

ねばり強く活動を続け、やったことを結果に結びつけていくこと。

環境にやさしく、安全安心な有機栽培で生産されたコウノトリ米など兵庫ブランドの商品を広く紹介し、サポーターを増やしていきたい。

団体名：NPO 法人 Peace & Nature

氏名：代表理事 Bahram Enanloo バハラム イナンル

事務所の所在地：神戸市中央区江戸町 101 三共生興スカイビル 509

電話：078-391-4565 FAX：078-391-4565

E-mail：info@peace-and-nature.com

ホームページ：http://www.peace-and-nature.com/

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開

メッセージを込める

日本の子どものみならず、国際学校の子どもたちに、自然や命の大切さを感じてもらうため、樹木を植えるグリーンムーブメントや工事現場に残され伐採予定だったムクノキの小学校への移植、ゴミ拾い等のクリーンアップ大作戦、駅の清掃を通じ、自然や人に対する「思いやる心」を学ぶ様々なワークショップを体験してもらい、ワールドチルドレンサミットにて、これから自分たちのできることを発表してもらいます。また子どもたちにクイズや笑いで地球温暖化などの環境問題を英語で授業をし、楽しみながらわかりやすくメッセージを伝えるようにしています。子どもたちが一方的に見たり聞いたりするだけでなく、一緒に汗を流し、自ら考える機会を作れるように、体験を重視した活動を心がけています。

⑥ネットワークづくり

人とのつながりは縁を大切にすることから

一度会った人とは、そのご縁を大切にしています。そうすることで自然と信用が生まれます。信用があって初めて活動も一緒にできます。子どもも大人も含め、地域の人と一緒に取り組むようにしています。また、インターナショナルスクールや外国人とのネットワークも大切にして、神戸らしく日本人と外国人が共に活動し、国際的にメッセージを送れるように心がけています。



ひとつことメッセージ

わたしたちは、未来を担う子どもたちに社会にメッセージを発信できる人になってもらいたいと願っています。子どもたちの純粋なメッセージや活動は、ときに強い力を発揮します。そのメッセージを受けたとき、大人である地域社会は無関心ではいられないはずです。

そして、子どもたちから地域社会へ、社会から子どもたちへ、お互いに良い影響を与えあう社会になっていくのではないのでしょうか。

だからこそ: We believe there is great potential to change society through school activities. Let's work together!

コツを学んで外国人の日本語学習を手伝おう！
「日本語の教え方教えます！」

活動の概要

日本に留学あるいは就業で訪れる外国人が日本語習得で苦勞しています。これらの人すべてに日本語を教える専門の教師が対応することは、費用の面でもマンパワーから言っても難しい。また、外国人に教えている日本人の中には日本人だから教えられるという安易な考えで対応している例も多く、きちんとした日本語を教えていない状況を憂えています。

私たちの活動は、このような日本人がきちんとした日本語を外国人に教えていくことができるようにということで立ち上げました。

従来あるテキストでは、限られた時間での修得が困難であると判断し、独自のテキストも8カ国語版を作成しました。

講座は、我々団体が行う自主講座と各地の団体から要請され出かける出張講座があります。主な要請先としては、神戸市、三田市、倉敷市、大阪市などの国際交流協会などです。



初級会話テキスト

8カ国語対応

成果

8カ国語版のテキストを使い始めて5年経ち、修了生も400名を超え、それら修了生は各地で外国人に日本語の指導を行っています。わかりやすいテキストと講師の歯切れのいい講義が相まって各地で高い評価を得ています。

また、各団体へのお出張講座においてもその評価は高く、何度も要請があります。

修了生のさらなるスキル向上の場として、昨年より外国人を対象とするサロンの運営を行っており、そこには多くの外国人が参加し、喜ばれています。

課題

講座のレベルとして、今までは入門と初級が主でしたが、中級レベルの講座のニーズが高く、現在中級教材の作成を来年3月をめどに進めています。この完成で私たちの活動は更に発展することが期待されています。



夢・抱負・今後の推進方向

修了生から有償ボランティアを多く輩出し、各地の日本語教育を必要とする団体や教室に派遣できる体制の確立。

テキストの活用者の増大。さらに上級のテキストの開発。

修了生が自信をもって外国人に日本語を指導できるスキルの認定制度を確立したい。



団体名：特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会

氏名：理事長 高畑 笙子

事務所の所在地：神戸市中央区山本通3丁目19-8 海外移住と文化の交流センター

電話：078-221-6530 FAX：078-221-6531

E-mail：mail@npo-thanks.jp

ホームページ：http://www.npo-thanks.jp

ノウハウ・コツ

⑧組織運営

事務局機能を担う人材を補強

日本語教育のプロが集まって立ち上げた NPO だったので、活動の中心となる日本語教育の専門性の分野以外のところが弱く、組織の運営面に弱点がありました。そんな折に「中間支援団体」があることをご紹介いただき、NPO の運営、組織作り、弱点の見直しなどについてのアドバイスをいただくようになりました。定期的なアドバイスの他、メンバーだけでは行き詰ってしまうような問題については、折々に相談にのっていただいています。

自分たちの組織の強み・弱みなどを客観的にみて、それに対する具体的な対策をたてるための指針を示してもらうことができ、組織全体を少しずついい方向に向けてこられるようになりました。

このような経緯の中で、事務局機能を担う人材不足が一番大きな問題であることがわかりました。これが原因で、広報、財務、役所関連の書類作り等がメンバーの大きな負担になり、事業の発展にも影響が出ていました。それが、今年度からプロパーの事務局長が加わったことにより、メンバーの得意分野によるすみ分けもできるようになり、事業推進力が大幅に改善されました。

②活動資金

資金調達は計画的に

初めの頃は、予算・決算の立て方も大変アバウトなもので、会の事業収入の範囲内で、なんとか活動資金をまかなっていくという行き当たりばったりの収支でした。助成金をいただき、報告書を書いていくうちに、(他の組織では当然のことなのでしょうが)プロジェクトの中で収支バランスをとること、新しいプロジェクトを始めるにあたって、該当する助成金の確保が可能かどうか、などを前もって考えるようになってきました。

また、日常の経費請求なども、後できちんと報告しやすい形に初めから整理して記入していくといったこともできるようになってきました。

一方、活動の趣旨を理解していただける団体からの寄付も大きな助けになっています。継続性を保つために、活動の実態や結果を見ていただく機会を提供し、活動への更なる理解を深める努力もしています。



ひとことメッセージ

日本語の教え方を学んで、正しい日本語を教えましょう。我々日本人にとってよく知ってるはずの日本語、しかし外国人に日本語を教えることで、違った面から見えてくる日本語も新鮮です。

国際協力

アジアの未来をアジアの人々と考える NPO
特定非営利活動法人 SEEDS Asia



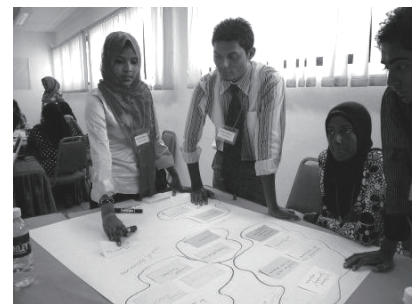
SEEDS ASIA

活動の概要

近年、世界では、地震や津波、洪水といった災害によって多くの人々が命を落とし、家などの貴重な財産を失うという被害が増えています。

SEEDS Asia は、主にアジアにおける環境問題の改善、防災と災害救援に取り組む NPO です。これらの活動を通して、社会全体の持続可能な発展や人間の安全保障の確保に貢献します。

日本の自然災害への対策についての豊富な経験を広くアジアに広めるべく、神戸で活動しています。



成果

設立後、最初の事業は 2005 年パキスタン地震後の復興事業で、現地の人々に防災トレーニングを実施しました。その後これまでに、6 カ国（パキスタン、インドネシア、モルジブ、ミャンマー、ベトナム、アフガニスタン）で、防災と災害救援の事業を実施してきました。

現在は、ミャンマー、インドネシア、ベトナムで、地域コミュニティの自然災害による被害をできるだけ少なくするよう、特に「学校防災」と「環境と防災」に力を入れて活動しています。

課題

事業実施のための安定した資金確保と人材確保

夢・抱負・今後の推進方向

「アジアで防災といえば、シーズアジア」と多くの人に認識されるよう、事務局の能力向上を進め、現在支援している国・地域での長期的な事業を実施していきたいと思っています。そのためにも、広報や資金調達などのやり方をさらに検討していきたいです。

団体名：特定非営利活動法人 SEEDS Asia (シーズアジア)

氏名：中川 裕子

事務所の所在地：神戸市東灘区岡本 2-11-21-401

電話：078-766-9412 FAX：078-766-9413

E-mail：rep@seedsasia.org

ホームページ：www.seedsasia.org

ノウハウ・コツ

⑤広報・情報共有

ホームページの充実とメディアの活用

ホームページは団体について知ってもらうとても有効な方法の一つです。特に当団体のように国際協力の分野で活動している団体にとっては、一般市民の人たちだけではなく、海外のドナーや関連団体に対してもアピールできるツールです。人材不足で難しい時もありますが、できるだけ最新の情報をアップデートするよう心がけています。

また、活動報告会やシンポジウムへの参加について、メディア（新聞）が取り上げてくれたことによって、団体の名前や活動を色々な方々に知っていただけたことが過去にありました。

⑥ネットワークづくり

積極的な交流

阪神・淡路大震災後、神戸にはさまざまな防災機関や国際機関が集結しています。機会があれば、それらの団体が主催する行事等になるべく出席するようにしています。

他団体の事業の勉強にもなりますし、思わぬところから助成事業の情報や一緒にお仕事をする話を頂戴することも、過去にありました。

⑧組織運営

中間組織の重要性

組織を運営していく中で、会計や税務のことなど、わからないことが多々できますが、そのような時はNPOをサポートしてくれる団体にとってもお世話になっています。

はじめての決算のときにわからないことだらけでとても悩んでいたことがありましたが、会計のサポートをしてくれる方に相談したらすぐに解決してしまい、もっと早く相談しておけばよかったと思ったものです。

また、中間組織の中にはホームページの中で、どの団体でも遭遇するようなよくある質問について回答をしていたりしますので、そのような点もチェックしながら日々の業務を行っています。



ひとことメッセージ

○国際協力で人材確保をするときは、JICAのサイト、「パートナー」を利用しています。国際協力に興味がある人は良くチェックしています。

<http://partner.jica.go.jp/>

○ご存知のかたも大変多いと思いますが、中間組織「シーズ」のホームページには、いろいろな情報が載っています。

<http://www.npoweb.jp/>

世界の橋渡しとなる人材を育む

活動の概要

‘00年、下中家（両親と12人の子どもたち）の6カ月間のインドボランティア旅行に広島テレビが同行し、“樫村武明のテレビ宣言”で9回、全国にも45分のドキュメンタリーで放映されました。支援の申し出があるなど反響が大きかったことから国際協力・国際交流、青少年の健全育成を目的とするNPO法人を立ち上げることになりました。

構成メンバーも個人医院の医師、クリーニング店の社長、家庭の主婦、学生、宣教師と幅広い層になっています。活動場所は、当初、広島とインドのプネ市を中心でしたが、兵庫県丹波市に移ったことから、兵庫県や大阪府にも活動場所を広げています。

主な活動としては、青少年を対象にイングリッシュキャンプ、親子キャンプ、子育てセミナー、女性とボランティアに関するセミナーの開催、インドボランティア研修旅行（年1回）を行っています。

また、青少年がインドやコロンビアなど海外の施設（学校や孤児院など）を訪ね、互いの文化を伝え合う交流や、平和活動として原爆展示会を約100カ所で開催しました。

成果

たくさんの若者達が、英語で生活する環境の中で、英語を学ぶ刺激を与えられ、自分から進んでプロジェクトに取り組むこと、職業・年齢・国籍・肌の色に関係なく協力して働くことのすばらしさを実感しました。

また、日本の物（水、家、電機、ガス、衣類やぜいたく品でさえ）があって当たり前な生活が、物がなくても幸せに生きている人が世界にはたくさんいることを知りました。



課題

広島にいた時には、市と協力して多くのことをしていましたが、丹波市に来てからはまだ市とは何もしていないので、縦、横ともに提携して多くの活動を行っていきたい。

人材、資金面でも、もっとシステム化された安定性のある方法が必要。



夢・抱負・今後の推進方向

将来的には、収益事業も立ち上げ、安定した収入と雇用も確保したい。

外国人のホームステイの仲介、日本からのボランティア体験の仲介、翻訳、通訳、イングリッシュキャンプ、各種セミナー等を通じて、丹波市や関西全体の国際協力等の活動を豊かにしたい。

将来的には世界でボランティア体験、国際交流、平和促進に貢献する活動を行いたい。

団体名：愛の架け橋プロジェクト

氏名：(理事長) 下中 明弘 (問合せ担当) 下中 比呂子

事務所の所在地：丹波市氷上町香良1114番地

電話：0795-82-7753 FAX：0795-82-7753

E-mail：alfy@woody.ocn.ne.jp

ホームページ：www.ainokakehashi.com

ノウハウ・コツ

①人材養成

若者は企画を実行するなかで学ぶ

すでに英語を話し、外国経験の豊かな若者たちを巻き込み、彼らの適材適所を見出し、企画実行をしてもらうことで、実際のいろいろなイベントやプロジェクトを推進するトレーニングになりました。彼らの中にはまだやったことがないというだけで“できない”という思い込みがありましたが、少しのヒントや助けで大人にはない発想を持って、成し遂げることができました。

⑨活動の展開

若者には若者が惹きつけられる

国内では、イングリッシュキャンプの開催や、行政が実施する国際交流・協力を目的とするバザーやピースアート等のイベントに数多く参加し、その中からインドにボランティア体験に行ってみたいという若者を募りました。若者には若者が惹きつけられます。今まで11年間で計8回インドのプネ市に赴き、現地で協力してくれる強力な若い世代の助っ人に会いました。

⑥ネットワークづくり

時間をかけてネットワークを構築

日本では広島市の平和文化センターと協力し、インドの高校や大学での原爆展示会、文化交流、国際交流を数多く行いました。また、現地のNGOと協力して、多くのスラムや孤児院、エイズの施設、学校を回り、物資支援や昼食サービス、文化交流も行いました。海外でこのような活動をするには通訳をしてくれる人を含め、ネットワークが欠かせません。

“継続は力なり”は真実です。長年かけて強い協力関係が築かれます。日本のNGOと協力して働きたいという現地のNGOにもたくさん巡り会えました。彼らとは今でも交流が続いています。そういった個人・団体から他の地域の人を紹介していただいて、少しずつ活動を拡大させることができます。



ひとことメッセージ

日本という国は島国で、江戸時代には長い間鎖国されていたこともあり、どうしても、“井の中の蛙”のようになってしまいます。皆さん、ときには井戸から出て、広い世界に飛び出し、そこの人たちが何を考え、どんな境遇で、何を感じ生きているのか、学んでみるのはどうでしょうか？ その上で、貧しい人たちの助けになれるなら、こんな充実感あふれる仕事はありません。自分の人生を何か価値あるもののために投資してみませんか？ 絶対はまりますよ。